

2020/9/29-2

(うとQ世話し ある予感)

要するに

「寄らば、大樹の陰」

は何処にも無かった。

思い起こせば、バブル崩壊だ、失われた20年だ、リーマンショックだ、東日本大震災だ、コロナ禍だ、風水害だ、気候変動だと右だ、左だ、上に行け、下に行け、と振り回され続けてきた。

その結果、会社にせよ国にせよ、頼りにならないことに気づいた。そんなものいつ潰れるか消えるか分からない。

そうしてとどのつまりは、世の中がどう変わろうが、何が潰れようと何が消えようと、結局頼りになるのは自分とその自分がこれから得て持つノウハウやスキルだけなのだと思います。

それでもまだ、会社や国にすぎる世代と、きっぱりと見切りをつけて自らの足で歩き出す世代との間に、現下のコロナ禍以降、大きな差が出てくる予感がいたします。

ここに初めて本格的な労働の流動化やグローバル化が我が国にもたらされるような気がしております。